

音楽の散歩道 その4

—歴史とオペラとメトロポリタン—

キラメキテラス ヘルスケアホスピタル | 粟 博志・高田 昌実・田島 紘己・上村 章
 加治木温泉病院 | 夏越 祥次 | 東区・荒田支部 | 粟 隆志
 大海・大海宮崎クリニック | 大西 浩之・海江田 寛・牧野 智礼

はじめに

日本の歌謡曲やポピュラー音楽は、作詞・作曲家が創作し、聴衆の共感を呼ぶ内容が凝集された、「3分間のドラマ、3分間の人生」と言えよう。聴衆は、ただ聴くだけで、何の違和感もなく感動に浸れる。

一方、オペラを予備知識なく聴いたり観たりする場合、外国語なので歌詞の理解が困難な上、一曲が2~2.5時間と長く、話の展開の理解も困難となる。

特に歴史物（多くは史実に基づく）は、宗教や王位継承問題などの歴史的背景を知らないと、男女間の複雑な愛憎や、死に至るまで

の複雑な心理描写などを理解するのが、一層、困難となろう。

更にオペラには、曲の構成・進行に一定のきまり事があり、それを理解しておく事が、オペラを楽しむ基本ともなる。

歴史・伝統ある日本にも拘らず、現在の学校教育は、目先のすぐに役立つもの、金儲けなどに直結するもの（もちろん、それらも大切であろうが）などが重視され、日本語や歴史などが軽視されているように思われる。過去の歴史は、次々に葬り去られ、貴重な教訓は忘れ去られ、同じ誤りを繰り返しても、「想定外」の一言で片付けてしまう傾向がみられるような気がする。残念である。

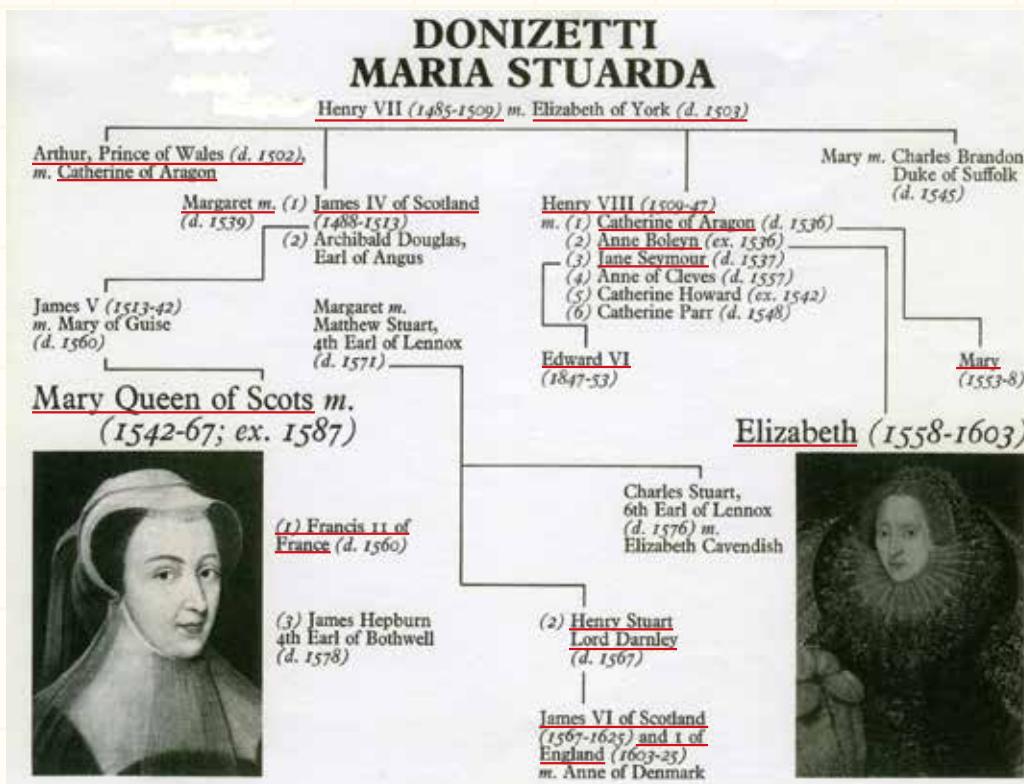


図1 イングランドのチューダー王朝の系図 ドニゼッティのオペラ「マリア・ステュアルダ」のリブレットの表紙

ここでは、ヨーロッパの地方の一国であつた英國（イングランド）が世界の大国に伸し上がった、チューダー朝～スチュアート朝の初期の歴史を概観すると共に、それに係るオペラの2～3を紹介する。更には、歴史と伝統の浅い国、米国の文化（オペラ）の一翼を担い、その歴史を記録に留めてきたメトロポリタン歌劇場の記念LPを紹介する。

図1は、ドニゼッティのオペラ「マリア・ステュアルダ（英語読みでは、マリー・スチュアート）、1834」（ジョン・サザーランド、ルチアーノ・パバロッティ、1974-75録音）のLPのリブレットの表紙である。

この系図は、このオペラを聴く者の最低限の基礎知識として添付されたと思われる。重要人物は、赤下線で示しておいた。

〔1〕イングランドのチューダー朝とスチュアート朝初期の歴史、英國国教会の設立と宗教紛争、その血腥い骨肉の争いの歴史

イングランドでは、百年戦争に続き、国内を二分した30年間のバラ戦争（1455-1485）で、赤バラのランカスター家が、白バラのヨーク家を破り、ランカスター家のヘンリー7世（王位継承権なし）がヨーク家の王女・エリザベス（王位継承権あり）と結婚し、チューダー朝を開き、絶対王政を成立させた。

（1）チューダー朝の開祖・ヘンリー7世（在位1485-1509）

ヘンリー7世には、4人の子がいた。

長男の皇太子 Prince of Wales のアーサー、長女マーガレット・チューダー、二男のヘンリー、それに二女メアリーである。

①長男アーサー：アーサーはカトリックの盟主にして、当時のヨーロッパ最強国スペイン（アラゴン）の王女キャサリンと結婚した。然し、アーサーが若くして死亡したため、キャ

サリンは、未亡人となる。

②長女マーガレット・チューダー：マーガレットは、スコットランド国王・ジェームス4世と結婚。従って、その子孫は、スコットランドとイングランドの王位継承権を持つ。

彼女らの孫が、スコットランド女王・メアリー1世である。

メアリー1世の再婚相手のヘンリー・スチュアート（ダーンリー卿）もイングランドの王位継承権を持つ。

2人の間に生まれたのが、後のスコットランド国王・ジェイムス6世である。

不思議な因縁で彼は、母・メアリー1世を処刑したイングランド女王・エリザベス1世の指名により、エリザベスの死後、イングランド国王ジェイムス1世となる。

彼は、スコットランドとイングランドの連合王国の国王となったのである。

③二男ヘンリー：ヘンリーは、兄アーサーの死後、未亡人となったキャサリンと結婚。父ヘンリー7世の死後、2代目国王・ヘンリー8世となる。

（2）2代目イングランド国王・ヘンリー8世（在位1509-47）、6人の女性と結婚

ヘンリー8世は、未亡人となったアラゴン（スペイン）のキャサリンと結婚すると共に、ルターの宗教改革に反対したため、カトリックの総本山・ローマ法皇から「信仰の擁護者」の称号を与えられた。

彼は、後継者に男児を切望すると共に、傲慢な性格の持ち主で、6人の女性と結婚し、多くの悲劇を生みだした。



キャサリン・オブ・アラゴン

①1番目の王妃：アラゴンのキャサリン

兄・アーサーの死後、その未亡人・キャサリンと結婚。

キャサリンの子供の内、唯一成人したのが、後にイングランド史上、初の女王となつたイングランド女王・メアリー1世である。

メアリーは、母同様、生粋のカトリック教徒であった。



②2番目の王妃：アン・ブーリン

ヘンリー8世は、男子を生まないキャサリンと何とか離婚し、キャサリンの侍女・アン・ブーリンとの結婚を画策。

然しスペイン国王の娘・キャサリンとの離婚を、ローマ法皇が許すべくもなかった。

そこでヘンリーは1534年、首長法（国王至上法）を制定し、国王を首長とする英國国教会を創設し、カトリックと断絶した。

これに反対したトマス・モアは処刑された。カトリック修道院は解散され、その土地は没収の上、貴族らに売却され、王室の収入となつた。

カトリックと断絶し、英國国教会を創設し、キャサリンと離婚してまで結婚したアンは一人の女児を生んだ。

然しへンリーは、またもアンの侍女・ジェーン・シーモアとの結婚を画策。アンに反逆罪等の濡れ衣を着せ、斬首刑に処した。

アンの一人娘が、後のイングランド女王・エリザベス1世である。



③3番目の王妃：ジェーン・シーモア

アン・ブーリンの侍女・ジェーンは、アンの死の直後、王妃になり、男児を出産後、間も無く産褥熱で死亡。この男児が、次期イングランド国王・エドワード6世である。

その後、ヘンリー8世は、更に3人の女性と結婚した（略）。

(3) 3代目イングランド国王・エドワード6世（在位1547-53）

父ヘンリー8世の死により、わずか9歳で即位。エドワードは、英國国教会を整備充実させるため、一般祈祷書を制定。然し16歳の若さで死去した。



ジェーン・グレイ

(4) (第4代) イングランド女王・

ジェーン・グレイ（在位9日）

エドワード6世の死後、キャサ

リンの子、メアリーが女王になるべきだったが、メアリーがカトリックの熱心な信者のため、国教会派から担ぎ出されたヘンリー7世の曾孫・ジェーン・グレイが即位したが、カトリック派から、激しい反発を受け、わずか9日で廃位された後、反逆罪で処刑された。17歳。

「悲劇の9日間女王」と言われる。ただ王位に入れられない事も多い。宗教問題は恐ろしい。



チューダー朝メアリー1世

(5) 第4代イングランド女王・

メアリー1世（在位1553-58）

Bloody Mary

ヘンリー8世の1番目の王妃キャサリンの子がメアリー1世である。メアリーは、熱心なカトリック信者で、英國国教会を覆し、カトリックの復活を図る。

英國国教会の信者を迫害し、約300人を残酷に処刑し、母親の恨みを晴らした。

「血塗られたメアリー」と呼ばれたが、現在まで、ウォッカベースにトマトジュースを満たし、香料を加えた真っ赤なカクテル「Bloody Mary」にその名を残している。

メアリー1世は、カトリックの盟主・スペイン国王・フェリペ2世となる、皇太子フェリペと結婚。

然し、体調をくずし、母親時代からの因縁により敵対していたアン・ブーリンの娘、エリザベスを次期国王に指名し死去した。



エリザベス1世

(6) 第5代イングランド女王・エ

リザベス1世（在位1558-1603）

エリザベス1世は、脱スペイン、脱カトリックと、英國国教会再興を図り、首長法（国王至上法）を再制定し、英國国教会を再確立しカトリック教を抑圧した。



元フランス王妃、
スコットランド女王
メアリー1世

*ここでスコットランド女王メアリー1世を振り返ってみよう。

メアリーは、父・ジェームス5世の急死により、生後6日でスコットランド女王・メアリー1世として即位（イングランドの王位継承権あり）した。

メアリーは、1558年、仏国王・アンリ2世の皇太子と結婚。この年、エリザベス1世が即位。

するとアンリ2世は、「エリザベス1世が国王ではなく、メアリー1世こそ正統なイングランドの王位継承者である」と主張。これに、エリザベスは激怒。メアリーとの仲も悪化。

翌年、皇太子は仏国王・フランソワ2世となり、メアリーは仏王妃となる。

ところが、1560年、フランソワは、わずか16歳で病死。子供のいなかったメアリーは、スコットランドに帰らざるを得なかった。

1565年、メアリーは、ヘンリー・スチュアート（ダーンリー卿）と再婚。卿の母は、エリザベスの従姉で卿も、イングランド王位継承権を持つため、メアリーの力が強まる事を恐れたエリザベスは、この結婚に大反対した。

2人の間には、男児ジェームスが誕生。

1567年にダーンリー卿が暗殺され、更に反乱が起こり、メアリーは投降し廃位。68年エリザベス1世のイングランドに亡命。

最終的には、カトリック教徒によるエリザベス暗殺事件に関与等の疑いで、1587年、メアリーは、エリザベスに処刑された。

メアリーは死ぬまでカトリック教徒であった。

スペイン国王フェリペ2世（かつて、イングランド女王メアリー1世と結婚していた）は、カトリックのメアリーの処刑に対し、1588年、スペインの「無敵艦隊」を英国に送ったが、英國艦隊に大敗。これにより、海上権を得た英國は、1600年に、東インド会社を設立し、海外交易に乗り出した。

(7) スチュアート朝の開祖・スコットランド国王ジェームス6世（在位 1567-1625）兼イングランド国王・ジェームス1世（在位 1603-1625）

衆知のようにエリザベス1世は「the Virgin Queen」と呼ばれたように、後継者がいなかった。エリザベスが死を前にして、後継者に指名したのは、自分が処刑した、元スコットランド女王・メアリー1世の息子の国王ジェームス6世であった。

1603年、エリザベスの死を以てチューダー朝は断絶し、ジェームズがイングランド国王ジェームス1世となり、スチュアート朝の開祖となり、スコットランド国王も兼ねた連合王国国王となった。

1603年の日本は、徳川家康が征夷大將軍に任せられ、徳川幕府が開かれた年である。

ジェームスは、エリザベス1世の政策を引き継ぎ、英國国教会による宗教統制と絶対王政の強化を目指した。

〔2〕チューダー朝の歴史に基づくオペラ

(1) サン・サーンスの「ヘンリー8世」

サン・サーンスは、シェイクスピアの「ヘンリー8世」などを素材に、キャサリン、アン・ブーリンを中心に、アンの処刑前の複雑な愛憎劇をオペラにした（1889年初演）。

なお、シェイクスピア（イングランド、1564-1616）は、卓越した人間観察による心理描写に優れ、18の戯曲がオペラ化されている。

(2) ドニゼッティの「アンナ・ボレーナ」

ドニゼッティは、アン・ブーリンの死と、新王妃誕生までを描く（1830年初演）。図2は、全盛期のマリア・カラス（1957）。

(3) ドニゼッティの「マリア・ステュアルト」

シラーの「メアリー・スチュアート」をドニゼッティがオペラ化。メアリーとエリザベ



図2 ドニゼッティのオペラ「アンナ・ボレーナ」
マリア・カラス, 1957

スの確執を描く。メアリーは処刑場に向かう（初演は、1835年）。

図3は、図1のレコード箱。箱裏には、指

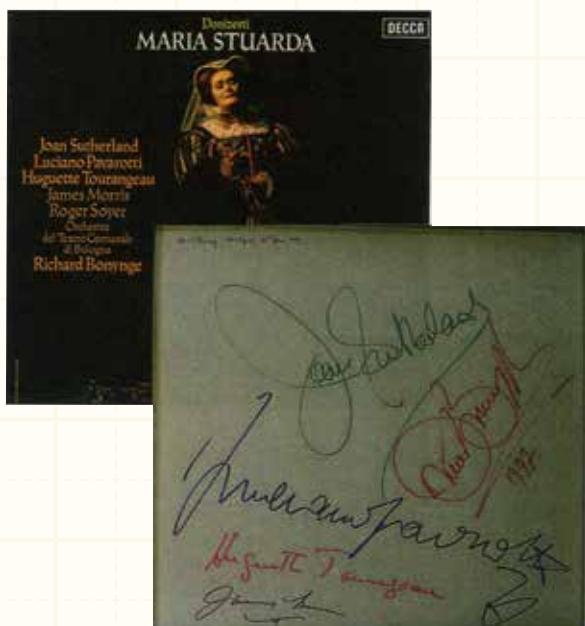


図3 ドニゼッティのオペラ「マリア・ステュアルダ」
ザザーランド, パバロッティ, ボニング

揮者、ソリスト達の貴重なサイン入り。

波乱に満ちたチューダー朝の女性達は、オペラの外、映画や舞台などに登場し続けてい

る。よく知られた歴史的事実を知り、作曲家や演出家が如何に脚色しているかを知る事も、オペラ等を鑑賞する楽しみの1つだろう。

(3) スチュアート朝の清教徒（ピューリタン）

スチュアート朝を開いたジェームズ1世は英國国教会の強化に努めた。

これに対し、聖書に基づく宗教改革を主張し、厳格な道徳律を信奉し、簡素な生活を希求する（pure, purity を重んじる）プロテスタントの人達は、Puritan 清教徒と呼ばれ国教会から迫害を受けた。彼らの一部は、苦難の末、メイフラワー号で、北米ボストンの南40マイルのプリマスに移住した。

彼らは後に、Pilgrim Fathers と呼ばれ、プリマスに上陸した1620年は一般的に、米国の建国の歴史の始まりと認識されている（彼らは、本国の植民地政策の一環として移住。既にヴァージニア植民地、ジョージ・タウンが1607年に入植済みであった）。

海の見える小高い丘に、1627年当時のプリマス植民地が再現されている。

各戸には、当時の服装のスタッフが、家の内で鴨を焼いたり、外の畑を耕したりと、当時を再現してくれる。海岸では復元されたメイフラワーII号の見学もできた。

図4は、40年前のものである。

1620年代の日本と比べると、ずっと原始的であるが、彼らの努力により、米国は長足の発展を遂げる事になる。



図4 プリマス植民地(1627年を復元, 40年前の写真) 左:全景 中:住居内部 右:柵の中にプリマス・ストーン

(4) 歴史に刻む、音楽を刻むLPで 楽しむメトロポリタン歌劇場(Met)

プリマス植民地開始からわずか263年後の1883年、ニューヨークに、豪華な最初のメトロポリタン歌劇場(Met)が建てられた。

オペラは、他の分野の音楽と同様、ラジオ放送によっても、更には、レコードによっても大衆に広まっていった。

メトロポリタンのオペラの演奏の多くは、きちんと録音・記録され、今日に伝えられている。それらの中の4点を紹介する。

① 「METROPOLITAN OPERA HISTORIC RECORDING」(図5a, 5b)

Metでは、重要な演奏は、きちんとLPでリリースされている。これは1952年のサロメとエレクトラの記録。サロメはR.シュトラウスに見出された歴史的ソプラノ、リューバ・ヴェリッヂエらの歌唱が聴ける。



図5a 油絵「サロメ、出現」

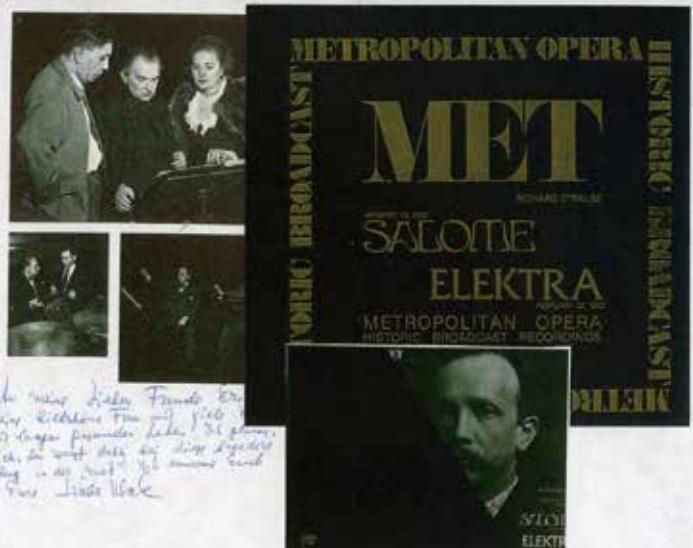


図5b Metの歴史的演奏の記録
豪華な布張りのレコード箱に入った「サロメ」、1952 (歴史的ソプラノ・リューバ・ヴェリッヂエ)

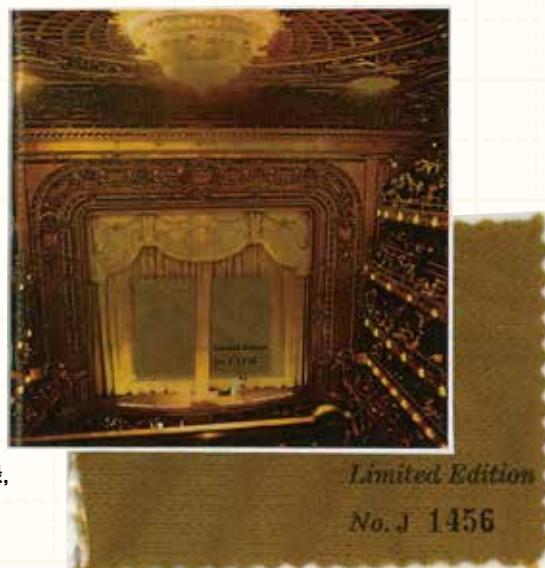
② 「Opening night at the Met」(図6, 7)

これは、メトロポリタン歌劇場(Met)の1893-1959年のOpening nightの録音を収録したもの。メトロポリタン歌劇場(Met)は、1966年にリンカーン・センターに移転。

このLPには、No. J1456というシリアル番号が付いた布切れが添付されている。

旧メトロポリタン歌劇場(Met)の座席番号でおしゃれである。

図6 MetのOpening nightの記録、
1893-1959
レコードのシリアル番号は
旧Metの実物の座席の布



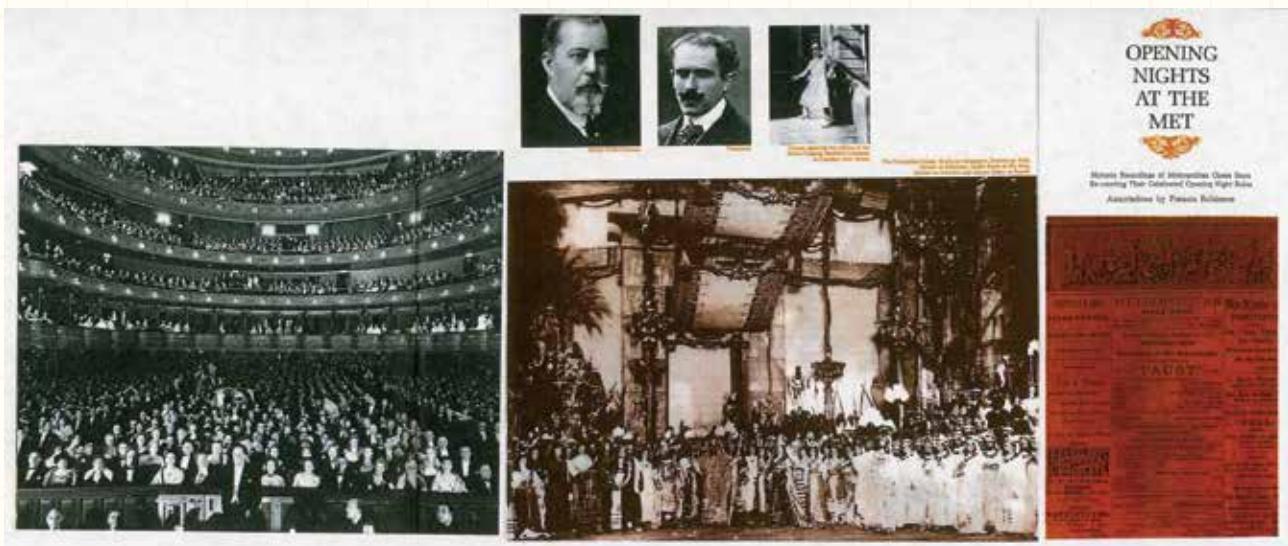


図7 MetのOpening nightの記録, 1893-1959 Metの歴史が分る, 写真や解説資料

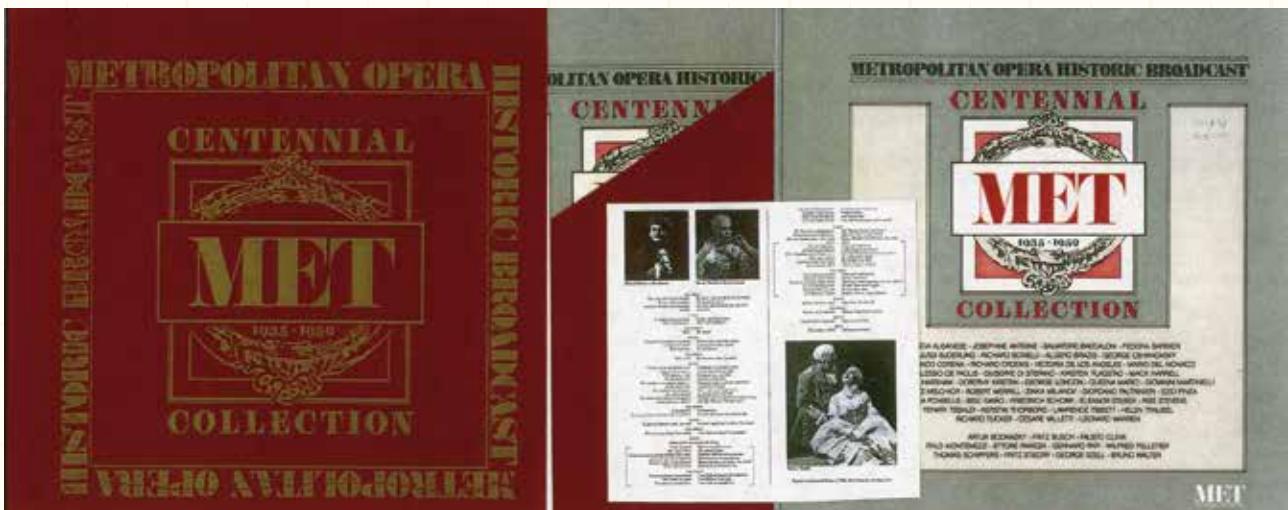


図8 Metのラジオ放送の1/4世紀の記録

③「MET HISTORIC BROADCAST CENTENNIAL COLLECTION, 1935-1959」(図8)

1935-1959年の1/4世紀に及ぶ、土曜午後のMetからの音楽放送の中、懐かしいものを収録。

④「RCA MET 100 SINGERS 100 YEARS」(図9)

1883-1984年の100名の名歌手と総支配人(general manager)の活動期間が一目で分かる。歌劇場に於るマネージャの重要性が分かる。

歴史と伝統の浅い米国では、何と

か文化を記録して遺そうという努力がなされているように思えるし、ビジネスとして成り立っているようにも思える。日本は、どうだろうか？

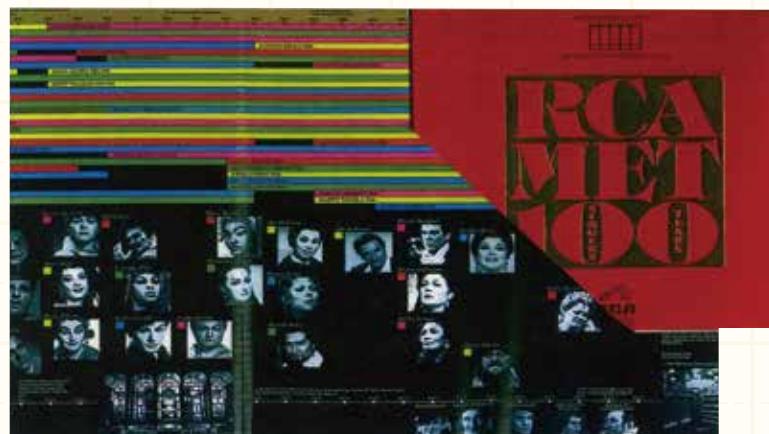


図9 Metの100年間、100人の名歌手の活動記録

〔付録〕マリアン・アンダーソン
(1897-1993, 96歳)

マリアンがアフリカン・アメリカンとして初めて Met の舞台に立ったのは、ベルディの「仮面舞踏会」、1955 年である。

この歴史的公演が、マリアンにとって唯一のオペラ出演であった。

1933 年、ロンドンのウェグモア・ホールをはじめ、ヨーロッパでの公演では、全く問題は無かったが、米国では差別がつきまとった。AINシュタインが、そんな彼女を手助けした事はよく知られる。

1939 年、ワシントン D.C. の Constitution Hall での公演を、保守的な所有者が拒否した。フランクリン大統領夫妻は、リンカーン記念堂の階段からの屋外公演を提案（図 10）。



図10 1939年の歴史的なリンカーン記念堂での野外コンサートの大観衆
“My Country, Tis of Thee”

“My Country, Tis of Thee, 私の祖国、それは皆さんの祖国”で始まる公演は、大観衆やラジオの聴衆に深い感動を与えた。

彼女は、50-60 年代に公民権運動、人種平等運動に尽力した。彼女が Met の舞台に立ったのは、今からわずか 68 年前の事である。

（なお、アフリカン・アメリカンとして、ジャッキー・ロビンソンが、MLB のドジャーズに昇格したのは 1947 年で、同年彼は新人王を受賞した）

マリアンは、1964 年 10 月 24 日から半年間、引退記念の世界ツアーを行った。

ツアーの初日は、1939 年の歴史的なリン

カーン記念堂公演につながった Constitution Hall であった。

私の手元には、ツアー初日の貴重な LP 「MARIAN ANDERSON at Constitution Hall, Washington, D.C. FAREWELL RECITAL」がある。

そのジャケットの裏面には“マリアンの引退演奏会にしては、私達の演奏会ホールは、あまりにもみすぼらしいが、私達の人としての人生が、彼女の不滅の献身によって実り豊かなものとなり続ける事を希望する”と述べられている。



図11 マリアン・アンダーソン 1964年10月24日の歴史的コンサートの記録
端正で力強いサイン

彼女のペン書きの端正で力強いサインは、彼女の意志の強さと誠実さを如実に示している（図 11）。

（つづく）